

令和2年度 第2回花巻市介護保険運営協議会 会議録

1. 開催日時 令和3年2月5日（金） 午後1時～2時30分

2. 開催場所 花巻市交流会館 1階 交流スペース

3. 出席者

(1) 委員 16名

橋本純子委員、 菊池清委員、 大原初美委員、朝倉千里委員、狩野隆史委員
佐々木一広委員、内館憲二委員、伊藤芳江委員、藤本莞爾委員
小田島克久委員、荒谷政博委員、畑村浩一委員、小木田勇輝委員
畠山良彦委員、 影山一男委員、千葉正明委員

(2) 欠席した委員 2名

高橋岳志委員、 上川亜矢委員

(3) 地域包括支援センター 1名

花巻中央地域包括支援センター管理者 伊藤圭子氏

(4) 花巻市 7名

健康福祉部長 高橋靖、 健康づくり課長 長山義博
長寿福祉課長 佐藤拓史、同課課長補佐 久保田和子
同課高齢福祉係長 丹野久弥、同課包括支援係長 鎌田晶子
同課介護認定係長 有戸裕美子

(1) ～ (4) 計24名

4. 議題

花巻市高齢者いきいきプラン（素案）について

5. 議事録

(1) 開会(久保田課長補佐)

ただいまから、令和2年度第2回花巻市介護保険運営協議会を開会する。委員の皆様には、大変お忙しいところ、加えて一昨日からの大雪の中、御参加いただき感謝申し上げます。開会に当たり、健康福祉部長の高橋から御挨拶申し上げます。

(2) あいさつ（高橋健康福祉部長）

本日は足元の悪い中、令和2年度第2回花巻市介護保険運営協議会にご参加いただき、感謝申し上げます。まず一点、現在、第7期の最終年度である介護保険部分の報告である。本年度はまだ見込みであるが、平成30年度から令和2年度の3年間、第7期計画期間の介護保険事業費は合計302億5000万円ほどで、第7期計画値330億円の92%弱の割合となり、概ね計画値の中で事業を行えたと捉えている。

本日は、花巻市高齢者いきいきプラン、第8期介護保険事業計画を協議いただくが、この策定に向け、昨年度から本年度にかけ、在宅介護実態調査と日常生活圏域ニーズ調査を実施し、その中から把握した実態と、昨年10月開催の第1回介護保険運営協議会で示した国の介護保険事業計画基本指針に沿って素案を策定したところである。

また、本日の前段として、昨年12月から本年1月まで骨子案によりパブリックコメント実施し、寄せられた意見等も盛り込んでいる。本素案は、長く健康で自分らしく生涯生きるために、自立支援や介護の重度化防止、生涯現役を基本理念として、団塊世代の全てが後期高齢者となる2025年への地域包括ケアシステムの充実強化、団塊ジュニア世代が高齢者となる2040年に向けた地域共生社会の実現への様々な取組を示した。更に、第8期中に必要な介護保険サービス量を見込み、それに対する介護保険料を設定した。素案をよりよいものにするため、本日は委員の皆様からご意見やご指摘等、忌憚のない話をいただきたい。尚、本日いただいた意見等を基に、更に検討を続け、次回第3回に、本案を報告させていただきたい。よろしくお願いします。

(3) 会長挨拶（影山会長）

委員の皆様にはお忙しい中お集まりいただき、感謝申し上げます。日本は1970年に65歳以上の人口が7%を超え高齢化社会に入り、1994年に14%を占める高齢社会となり、2007年には65歳以上の人口が21%を占める超高齢社会に入っている。また、少子化が進んでおり、人口減少社会という単なる高齢社会ではなく、人口が減少する社会である面での新しい課題がある。更に、気候変動による災害の発生や新型コロナウイルス感染症の蔓延という昨年からの新しい事態など、単に高齢化社会が進むことでなく、その中でどう対応すべきかへの問題、加えて、気候変動や感染症対策などもこの素案の中に盛り込まれており、新しい時代に対応しようという意欲を垣間見ることができる。ぜひ委員の皆様から積極的なご意見をいただき、よりよい計画にしていいただければと思う。よろしくお願いします。

<出席状況の報告>久保田課長補佐

本来であればここで出席者の皆様を紹介するところだが、本日はお手元に配付した出席者名簿で紹介に代えさせていただく。

協議に入る前に、本日の会議の出席状況を報告する。委員18名中、出席16名、欠席2名である。花巻市介護保険運営協議会規則第5条2項の規定により、委員の過半数以上の出席となっており、本会議は成立することを報告する。

＜議長選出＞久保田課長補佐

それでは協議に移らせていただく。会議の議長は、規則第4条第2項の規定により、会長となっている。影山会長よろしく願います。

(影山会長)

それでは、初めに協議事項の(1)花巻市高齢者いきいきプラン素案についての議題について事務局より説明をお願いします。

(4) 協議

花巻市高齢者いきいきプラン（素案）について
資料に沿い、佐藤長寿福祉課長より説明。

(影山会長)

事務局から高齢者いきいきプランの概要版を中心に、一括で説明をいただいた。ただいまの説明に基づき、委員の皆様から御意見、質疑等を伺いたい。最初に、進め方についての提案だが、素案の第1章から章ごとに質疑したいと思う。なお、第4章は分量が多いため、施策目標ごとに確認、質疑を、第2章も二つに分かれるが、適宜、進めていきたい。それでは、概要版ではなく素案の文言等々に関してご意見をいただきたい。最初に、第1章1ページから3ページのご意見はないか。

(内館委員)

3ページの計画期間が令和5年から3年になっている。3から5に修正すべきである。

(佐藤課長)

ご指摘どおりに、修正する。

(影山会長)

3ページ「2025・2040年を見据えた介護保険事業計画の策定」で、2025年までの見通しの下部の「令和5年度から令和3年度」の記載が誤りで、「令和3年度から令和5年度」が正しい。他にご意見はないか。

私からだが、1ページ目の第2段落で「花巻市においても高齢者人口は」と書いてあるが、「65歳以上の高齢者人口は」と年齢を入れたほうが読む際にわかりやすい。後

から出てくる前期高齢者や後期高齢者は年齢が入っており、年齢が入ったほうが、高齢者人口と漠然と書かれているよりわかりやすい。また、同ページ一番下の段落に「これまで高齢者を支えてきた生産年齢人口」とあるが、生産年齢人口は専門用語である。「年齢として15歳以上65歳未満」というように、括弧書き等で補足を加えると、生産年齢人口が何歳から何歳かとイメージできやすいと思う。

(佐藤課長)

ご指摘について、検討させていただきたい。

(菊池委員)

1ページの4段落目の1番最後の部分の「社会資源」という言葉をこの頃よく耳にする。社会資源という言葉は、制度や施設、サービスやあらゆる相談機関などを指すと思うが、注釈等を入れていただくとわかりやすい。他のいろいろな計画でも、社会資源という言葉がよく使われていた。専門の方など、わかる人はわかるだろうが、読んだ方のうち、社会資源とはどういうことか、と感じる人もいると思う。

(佐藤課長)

ご指摘のとおり、専門的な言葉には注釈をつけていきたい。

(影山会長)

他に、第1章の中に一読で分からない専門用語や説明が必要と思われる点はないか。

(橋本委員)

第7期計画には、介護を行う家族への支援や虐待防止対策の推進とあったが、今回の第8期計画では無くなっている。これは、達成が出来たからなのか、または多くあることなので必要ないという考え方なのか、教えていただきたい。

(佐藤課長)

介護を行う家族への支援や虐待防止対策は、素案60ページ第4章の「地域での見守りの仕組みづくり」の中の「(2) 高齢者権利擁護体制の充実」に含まれるものだが、第8期は、虐待防止や成年後見制度の周知や利用促進等、第7期で詳しく出てこなかった項目も載せている。また、地域共生社会の実現という部分にも入ってくることだと思うが、地域での見守りの仕組みづくりというところで大きく、高齢者権利擁護、認知症、成年後見制度について、成年後見制度は利用促進計画を策定する予定であり、そちらを見据えながら取り組んでいくことで、素案に記載した。

(影山会長)

計画の主要な取組に明示されないが、施策目標等々には書かれているということによろしいか。他に第1章についてなければ、5ページからの第2章に進めさせていただく。第2章は、5ページから22ページと、23ページから28ページと内容が異なるため、最初に第7期に関わる5ページから22ページの部分にご意見をいただきたい。

(内館委員)

10ページの(4)の要介護認定者の推計では、令和2年度と令和5年度の単純比較で、明らかに重度の4以上の方が減って、それ以下の方が増えて軽度化している。これは「見える化」システムがそのように出しているということか。

(佐藤課長)

そのとおり「見える化」システムで出てきた数字である。「見える化」システムは、最近の平成30年、令和元年、令和2年の推移等を基に推計している。

(影山会長)

例えば、要介護認定者数を令和2年度と令和7年度で比較すると、令和2年度は6,401人。これを100とすると、令和7年度の推計値6,583人は102ということになる。先ほどの意見のように、軽度認定率は少ないが、重度認定率は高い。10ページで、調整済み重度認定率について、一つの結論として全国よりやや高く、県と同じと記載しているが、全国や県との比較も大事かもしれないが、前のほうで85歳以上の長寿人口が増えると推計しており、介護度が高い人の割合の増加要因は、85歳以上人口が増えるためであり、調整済み重度認定率をはじめ、他の数値も全部上昇する方が重要である。比較もいいが、要介護度の高い人の割合が高まることのほうがより重要である。

(佐藤課長)

ご指摘について、確かに、後期高齢者人口のうち85歳以上人口が増えており、そちらが重度化しやすいことから、再検討させていただきたい。

(小田島委員)

日常生活圏域の件で教えていただきたい。現在、大きい圏域は5つとなっており、その中の更に小さな構成地区は資料にもある。ここ何年、この形(圏域設定)である。記載しているとおおり、人口や様々な事情で、5圏域にしていることは理解できるが、10年前と今とでは、人口や施設の整備状況等が変わってきている状況である。将来的なことも含めて、市として、5圏域で固定化する考えかどうかを確認したい。

(佐藤課長)

第8期計画には、日常生活圏域の設定を5圏域として載せている。中央圏域については、人口等から2つに分けたほうがいいのではないかというご意見をいただいているが、他の圏域では、今現在、意見をいただいていないため、取りあえず今度の3年間は5圏域でいきたいと思う。

(影山会長)

次に、第7期と第8期に関わる23ページから27ページ、第7期の振り返り評価も含めてご意見等はないか。

(畠山委員)

まだ資料の読み込みが浅く、質問的なことになるが、この素案は12月に配布予定ではなかったのか。前回、10月1日の介護保険の会議資料には、12月中に素案を委員に発送と書いているが、実際に資料が届いたのは3日前だった。3月に最終案は出るとはいえ、3日でこの資料を読むこと自体難しい。

本題に入るが、前回10月1日の会議では、資料の1の中に自己評価の資料があった。年度途中で数字を出せない部分もあるだろうが、評価をしないで次の計画を立てるのはいかながなものであるため、現時点でいいので評価すべき。というのは、23ページの「振り返り（評価）」を読んでもよくわからないし、次のページの第8期計画は、全部第7期と一緒にある。介護保険は相手が人間であり、そんなに変わるものではないには当然だが、4番の大きいものを見ても、頑張ります、取り組みます、推進します、なんとかしますと書いているだけで、評価が全然書いていない。達成出来たのか出来ないのか、達成できてないなら、何でそれが達成出来なかったか評価が出来ないまま、次の計画を立てるのはいかながなものか。第7期計画の目標が達成出来なかったのは人的な問題、時間的な問題、いろいろな問題があると思う。深くとは言わないが、追求いただき第8期の反映し重点的に取り組んでいただきたい。以上である。

(佐藤課長)

大変貴重なご意見と思う。12月に素案を出したかったが、12月には評価や今後の方針がまだ見えておらず、骨子案の形で委員の皆様と、パブリックコメントで示させていただいた。今回の資料も、こちらの不手際で、皆様に示せたのが3日前となってしまう、本当に申し訳なく思っている。ただ、今回第7期の評価がなぜ出来ないかについては、第7期は令和2年度までであり、最後まで終わっていない段階で全ての評価は出来ないと思っている。そのため、2年間の取組の評価を示させていただいた。何を言っても言い訳にしかないが、私たちも第8期にやらなければいけないことをいろいろ思案して、今回の素案を示させていただいたところである。遅くなったこと

に対しては、本当に皆様にお詫びするところだが、今回のこの素案の検討をよろしく
お願いしたい。

(影山会長)

ただいまの回答は、この評価はまだ年度途中であり、最終評価ではないということ
でよろしいか。

(佐藤課長)

そのとおりである。まだ第7期計画期間中であり、見込みでしか評価を出せない。

(影山会長)

そういうことであれば、年度途中でまだ評価出来ない部分に星印等をつけるとか、
一言断りを入れる等すればいいと思う。畠山先生のご意見を考慮し、明確に反映でき
るものは反映して欲しいが、こういった計画は、前期と来期の間の今年度中に次期計
画を立てなければならないため、3月31日までの事業を全て明確に踏まえるのは難し
く、100%振り返ることは出来ないと思う。現時点で評価が定まっていない部分には、
正直にそう文言を入れることは問題ないと思うため、評価がまだ未達成の部分も記
載いただきたい。

(佐藤課長)

ご指摘について、再検討させていただきたい。

(影山会長)

次に、第3章の計画の基本的な考え方の29ページから32ページについてご意見はあ
るか。特になければ、第4章について、施策目標ごとにご意見をいただきたい。施策
目標Ⅰの33ページから35ページまでのところにご意見はないか。

(菊池委員)

33ページから指標が示されているが、コロナ禍で今までにないものが出てきた中
で、例えば33ページのふれあいいきいきサロン活動はどんどん増える見込みになっ
ている。サロン活動や、敬老事業活動は、今、停滞している感じを受ける。どんど
ん増やしていいものかという点と、先ほどの質問にもあったが、3月までの実績(見込)
から、令和3年度の計画値を出すと思うが、現状値の記載がないため、見込み値が実
際に可能な数字なのかかわからない。コロナ禍で、例えば老人クラブ活動を辞めると
ころが出てこないのか。敬老会は、それでなくても、どんどん参加者が減っている。対
面の活動が減っている段階を、こういう指標に反映させなくていいのかと感じた。

(佐藤課長)

実際のコロナの関係部分は、先ほど話した61ページの災害対策の推進部分である。敬老事業の支援人数が増えているのは、敬老会の対象者数は75歳以上人口であるため、どうしても数字が上がっていく。ボランティア養成研修はコロナ禍でも実施しておりボランティア総数は増えていく。また、そういう支援を待っている方も増えていくと思うため、ボランティア団体も増えてほしいと思っている。老人クラブ会員数も同様である。コロナ禍だから減らさなくていいのかと問われても、どの位減るのかわからない。コロナ禍が、どこまで続くかわからないが、今回の計画に感染症対策などを明記し、この中でやらせていただくよう策定したところである。

(影山会長)

第8期計画期間中の施策の展開の数字がここで示されているが、先ほど畠山先生が言ったように、振り返りという観点でいくと、現在把握している第7期の数字が最初にあって、その上で第8期の令和3、4、5年の数字が入っているのが良い。第7期の動向も踏まえて示しているのなら、例えば33ページの「ふれあいいきいきサロン活動の実施団体を有する行政区数の見込み」というところで、令和2年度の数字があれば令和3、4、5年の感じがわかりやすくなる。施策目標についても、令和2年度値があると、第7期との繋がりが、よりわかりやすくなるのではないかと感じた。

(佐藤課長)

そちらも検討して、見込みや実績値が出せる部分は書かせていただきたい。

(影山会長)

第1章や第2章は、令和2年度とか過去の数字が出ている。今後の数字も出ているので、第4章も数字があるところは実績を書いておくと、第7期と第8期の違いなどもわかると思うので検討いただきたい。

(佐藤課長)

ご意見ありがとうございます。

(藤本委員)

施策の展開の中で、高齢者の積極的な社会参加の推進とあるが、確かに、今のお年寄りを元気にするのは良いことだが、(元気過ぎて)結局親と子が絶縁することもある。今のお年寄りを教育するような講師、策をつけていかないと。岩手県は全国で自殺が1番多い。親と子の絶縁を原因とする中で、自殺が出ていることもあるため、やはり何かつけ加えていただきたい。以上である。

(佐藤課長)

ご指摘について、市の自殺計画があるため、そちらを見据えながらやっていきたい。

(影山会長)

続いて、36ページから38ページの施策目標Ⅱについて、ご意見はないか。

(小田島委員)

先ほどの施策ⅠとⅡも関係するが、このコロナ禍で交流の機会が非常に減っている。先ほど出た、いきいきサロンや地域の介護予防にしても、集って交流する事業が今できていない状況である。その中で、計画に盛り込むのは、ちょっと難しいと思うが、高齢者は、コミュニケーションや触れ合いが大切で、孤立させないことが何より大事だと思う。今、私ども社会福祉協議会は、このいきいきサロンの展開として、地域で実際の交流はできないにしても、高齢者が孤立しないように様々な通信を出したり、感染対策をしながら訪問活動をしたりということを進めている。これは質問ではないが、先ほどの交流が減ってなかなか数字どおりいかない部分を、どのように計画に盛り込むかについては非常に難しいところだと感じた。

(影山会長)

コロナ禍の状況にある中、それを盛り込んで数字を立てるのは非常に難しいところと思うが、あくまでもそういうことを目標にすることが前提である。その点は、後のほうで新しく柱を立てた感染症対策に踏まえていると思う。続いて、施策目標Ⅲの39ページから61ページまでの部分にご意見はあるか。特になければ、施策目標Ⅳの介護保険サービスの充実について、62ページから73ページまででいかがだろうか。

(内館委員)

関連付けもあるが、まず72ページの⑧の地域密着型特別養護老人ホームが5年度までに86人増えることになっている。施設整備の計画はないが、何故増えるのか。

(佐藤課長)

現在29床の地域密着型特別養護老人ホームの建設準備を進めている最中であり、令和3年度着工予定で、令和3年後半か4年に完成できることから、計画の人数を増やしたところである。

(内館委員)

令和5年度が290人で、令和2年度から86人増えることであるが、どういうことか。

(佐藤課長)

現状、ほうじゅの郷など、定員数が埋まっていない施設もあるため、施設整備の数だけではなく、今現在ある施設の空き状況なども踏まえた上で、実際の数字を入れさせていただいている。

(内館委員)

つまり、まだ施設は増えるし、稼働すべきところが稼働すれば86人ぐらい増えるという見込みか。そうなると、介護の人材も必要になる。少なく見積もっても、介護職員が30人くらい、看護職も3、4人、今よりも増えなければいけない。63ページの人材の確保、人材定着の支援にも絡んでくるが、花巻市内でそれだけの介護職を増やすとなると、一事業所だけの単独の取組ではなかなか難しいものがある。ここにも書いてある通りだが、市で先頭を切って、人材の確保のほか、介護ロボットやICTの普及促進に、是非、力を入れて貰いたい。市の主導で研究会を開くとか、そういったことをしていただきたい。希望である。

(佐藤課長)

ご意見ありがとうございます。介護人材についても、皆様の力を借りながらいろいろな施策を展開していきたい。

(影山会長)

人材確保は非常に大事だと思う。ここがきっちりできないと絵に描いた餅になってしまう。人材確保や養成についても、具体的な数字が上げられれば上げたほうがいいと思う。非常に厳しいところだろうが、是非頑張ってください。

(橋本委員)

72ページへの質問である。例えば「今、花巻市に特養老人ホームは幾つありますか」と聞かれたら、私は、はっきりした数を答えることが出来ない。介護の委員として恥ずかしいが、市民の皆さんもわかっていないと思う。インターネットで調べたら平成21年4月の花巻市の高齢社会福祉の概要という情報が出てきた。花巻市のマークが入っていたため確かな情報だと思うが、特別養護老人ホームが7件と記載されていた。今、特養は16件あるようだが、令和2年の見込み616人という人数に疑問を持った。16件を単純に割っていいのか、それともいろいろなものがあって、616という数字が出ているのか。今は「見える化」システムというものがあり、資料の中にもシステムによる数値があるが、市の介護部署として、新しい数字を上げてほしい。希望である。今回のコロナ禍で、花巻の施設で感染者が出た際に、施設は何件ぐらいあるかと聞かれたが、答えてあげられず、大体の数字しか言えなかったのが、ちょっと情けないと

というか残念であった。市民の皆さんも関心高いことであるため、数字でも画面でもいいが、花巻市として見える形で資料を上げてほしい。皆さんに興味を持っていただくには、今はネットの時代であるので、もう少し分かりやすい形で提示していただくのが1番いいと思う。また、ネットで見た時の話題づくりにも、興味を持っていただけるよう、見える化を考えていただければありがたい。

(佐藤課長)

そのとおりだと思う。ご意見をいただいたように、最新の数字等は出させていたきたい。また、市からの情報提供の一つとして、花巻市のホームページ内にケアナビというページを作っており、それは、どこにどのような施設があるか、こういうときはこの病院があるというような、介護、福祉に対する情報を一体で調べられる検索システムである。私どもの広報、周知不足もあり、まだ広く知られていないため、皆様にそういう情報を伝えていけるよう、今後とも広報等でさらに周知していきたい。

(影山会長)

今のご意見に沿って、資料編などに、花巻市の介護保険やそれに関わる情報が見られるホームページのURLを入れると分かりやすいのではないか。協議会規則や委員名簿も大事だが、花巻市の様々な情報を見ることができるURL等を資料編に載せるのもいいと思う。

(佐藤課長)

ご意見ありがとうございます。今後検討させていただきたい。

(影山会長)

続いて第5章について、75ページから83ページまでのところにご意見はないか。ないので、続いて、第6章へのご意見はないか。

(荒谷委員)

他の章にも跨る質問だが、86ページの地域リハビリテーションの推進について、前のほうに、こういう感じでモデル事業をやります、と書いているが、モデル事業の具体的な方法として、どこかの医療機関を指定して、ある程度準備しており、もう進められる段階にあるのか、それとも計画だけで、実施はまだどこも手を挙げるところがない段階にあるのかをお聞きしたい。

(久保田課長補佐)

こちらはモデル事業と記載している通り、医療機関等、どこかに委託してやるもの

ではない。今いろいろな形のリハビリテーションがあるが、目指すのは、要介護の前状態であるフレイルに移行しそうな場合に、そのままフレイルにならないよう、またフレイルになっても状態を悪化しないよう現状を維持し、なるべく長く元気な状態であるための、強化的・集中的なリハビリテーションの仕組みづくりである。しかし、構築が難しく、いきなり委託できないため、第8期においては、どこの病院への委託に特化せず、市内のリハビリテーション専門職の皆さんと一緒に、市全体としてモデル的取組をするため、このような表現にさせていただいた。

(荒谷委員)

もう一つ、モデル事業と別な話で、既に要介護の方のリハビリについてだが、ケアマネジャーとして、リハビリ事業所へ紹介するケースも多いが、事業所により、どういう状態の方でも、事業所側の都合で週1回しか受け入れられないと言われることもあり、そうすると話が先に進まない。これから寝たきりになる方の要望も一つだが、寝たきりになった方をこれ以上悪くさせないために、市で調整役をしていただけると、より重度化を防げるのではないかと日頃仕事をしていて思う。現実的に10年ぐらい見ていて、要介護2や3ぐらいの方でも、週1回ではなく2回、3回とリハビリを受ければ、他のサービスを使うことなく生活できそうだと思う人も実は多い。そのような事実も市として把握していることがあるのか。

(久保田課長補佐)

リハビリテーションについては、各施設や病院が職員として抱えているリハビリテーション専門職がおり、それぞれの体制の中でサービスを提供していると思う。市では重度化防止や介護予防の視点をするため、ケアマネジャーや介護事業所の資質向上に向けた研修等を開催し、その研修会を介して、サービス提供の調整や、状態に応じた必要なサービスの優先度を伝えている。もう一つ、通所や訪問という形のリハビリテーションの他に、在宅で御家族もしくは御本人が自分で取り組めるリハビリテーションについて、在宅医療介護連携の取組の中で作成しており、そちらについて取り組んでいただくことも並行して進めていきたいと考えている。

(大原委員)

コロナ禍の忙しい中で、この計画を例年と違った時間を割きながら策定している皆さんに本当に敬意を表したいと思う。全体を通して、先ほど令和2年度やそれ以前の実績値があればいいとお話があったが、ホームページなどで示しているかもしれないが、可能であれば計画の資料編に、第7期の計画値に対する実績値を入れていただければいいと思う。それが積み重なることによって、地域の計画に反映されていくことだろう。給付率92%という実績を出しているところを強調して、その辺をグラ

フで表すとか、素晴らしい結果が出ていることをポジティブに捉えて示すのもいいのではないかと感じた。また、第8期で新しく入れた事業等は、何らかの形で新事業と表示していいのではないか。例えば、災害や感染予防対策の部分や、地域ケアシステムの中の地域コーディネーターの部分は今期初めて入った項目なので、その部分を、どのような仕組みで、どういうところがどのように担当して、どういう内容でやっていくかというような付属の添付があってもいいのではないか。用語も、専門的な用語になっている部分が非常に多いと感ずるため、付属の資料で解説すると非常に助かると感じた。

(佐藤課長)

ご意見ありがとうございます。そちらについても検討させていただきたい。

(影山会長)

私も大原委員の御意見は非常にいいと思う。本文に細々掲載するより、資料編などに第7期の実績を一括して載せたほうが、修正しやすいだろうし、すっきりするのではないか。ぜひ大原委員の御意見を参考にさせていただければと思う。他に御意見いかがだろうか。特になければ、質疑は終了とさせていただく。なお、言い足りない点等がある場合は、各委員の方に配られている資料の中に、令和3年2月12日期限の、久保田課長補佐宛のファクス等々で御意見等を集約していただけるとのことである。これで議長を退任させていただく。

(久保田課長補佐)

影山会長ありがとうございます。皆さん、熱心に御協議いただきありがとうございます。先ほど会長から御紹介があったとおり、この場で言えなかったが後から思い出したという意見等があったら、御手元に配布している御意見集約票で寄せていただければありがたい。期限が1週間と短いですが、ぜひよろしく願います。最後に1点だけ説明させていただきたい点がある。素案の2ページの2の計画の趣旨で、第8期計画の基本指針と記載しているものは、第8期計画の充実項目として国が目出した項目であり、これだけ特化してやるということではないため、記載の仕方をそのように改めさせていただく。

これをもって、令和2年度の花巻市介護保険運営協議会の第2回目を終わらせていただく。本日は長時間にわたり熱心に御協議をいただき、感謝申し上げます。第3回目については3月の下旬を予定している。その際はまたよろしく願います。